



同志社大学大学院 博士課程教育リーディングプログラム
「グローバル・リソース・マネジメント」
2017年度 履修候補生募集要項

◆「グローバル・リソース・マネジメント」が求める人材

本プログラムは、グローバル・リソース・マネジメント（GRM）の本質を、天然資源や人的資源・社会関連資本を適切かつ公正に管理・運営することにより、共通リソースとしてインフラストラクチャーを持続可能な発展と人々の安寧と平和のために構築・改善していくことと捉え、文理融合型の教育プログラムの提供を通じて、自然科学分野における最適化問題を社会科学的側面も含めて鳥瞰し、国家資源・社会インフラが「人間が創出するシステム」であることを理解して現在の困難を解決し、将来に生じうる隘路を事前に察知した対策を講じることのできる人材を養成することを目的とする。そのために、次のような学生を求める。

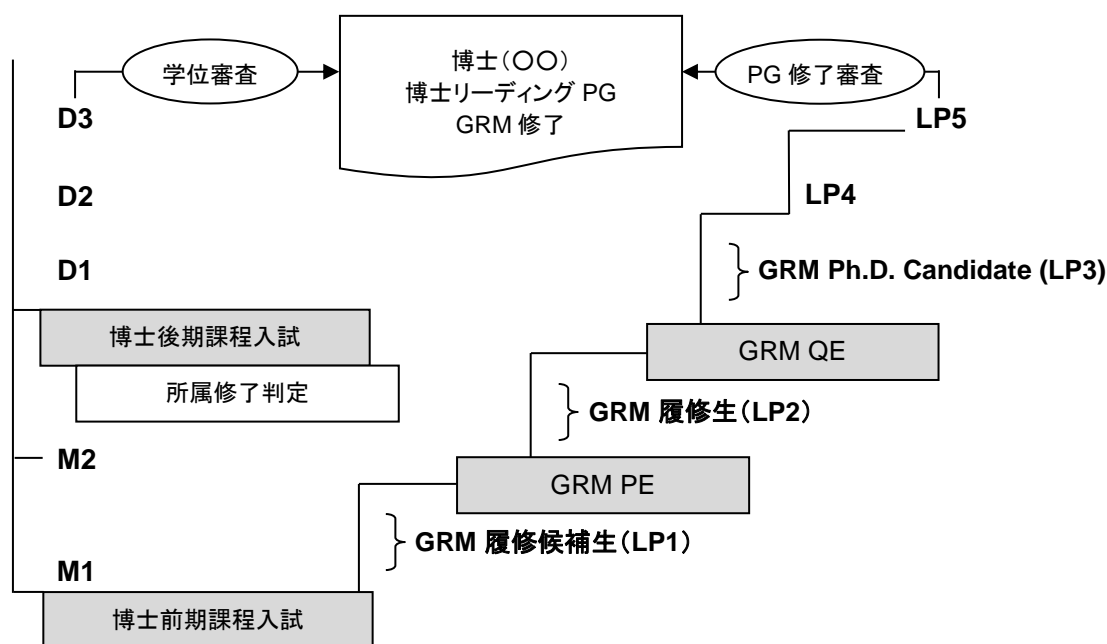
- ① 災害、紛争、貧困など、生存の危機に瀕する過酷な状況にある人々に寄り添い、共に学ぶことによって困難を打開する志をもった学生。
- ② 論理的思考能力、英語および研究に必要な言語の資料読解力と発信力を有し、科学技術に対する正しい倫理観をもって、社会に貢献することを望む学生。
- ③ 文理融合の知を基に、「公正」のなんたるかを意識しつつ、宗教間、民族間の共生を志向し、地球的課題としての困難の発生を抑止し、また発生した困難からの復興と発展に取り組むことができる学生。
- ④ 困難から脱して、発展の途上にある新興国において発展の持続性と格差の縮小に取り組むことで、これらの諸国と戦略的パートナーシップを築いていく活動に取り組む意欲を持つ学生。

なお、本プログラムは、博士前期・後期課程を一貫する5年間のプログラムとして、博士前期課程1年次終了時点と2年次終了時点で、それぞれ、Preliminary Examination（PE）とQualifying Examination（QE）を実施する。PEにおいては、本プログラムへの志向性を確認するために、志望理由書、博士前期課程における履修状況、筆記試験（論述）、口頭試問、および研究指導教員からの所見を通じて、本プログラムの履修資格の認定審査を行う。QEにおいては、本プログラムを継続的に履修する能力、知識が備わり、学位論文作成の準備が備わっているかを確認するため、研究計画書をもとにした口頭試問を実施し、本プログラムの継続履修資格の認定審査を行う。

◆ 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラムについて

本プログラムは、良心教育を基礎に据え、本学の教育のグローバル化の成果を活かして、諸研究科を横断する新たな大学院教育を創設するという趣旨から構想された。本プログラムが養成しようとするグローバル・リーダーは、いわゆる「エリート型」リーダーではなく、新興国や最困難国・地域で現地の人々と同じ目線で諸問題の解決にあたることのできる文理融合型グローバル・リーダーであり、創立者新島襄の精神が生き続けている本学独自のプログラムである。

このような人材を育成すべく、基幹研究科・専攻又は連携研究科・専攻（表1）に入学した学生を対象とし、博士前期・後期課程を一貫する5年間の学位プログラムによる大学院教育を提供する。本プログラムの履修を希望する学生は、所属する研究科の定める規程等に従って博士前期課程の教育課程を履修するとともに、本プログラムが開設する独自の科目を履修する。博士前期課程1年次終了時点で、本プログラム履修生としての認定を審査する Preliminary Examination (PE) を受験し、当該試験に合格した者を「GRM 履修生」として迎え入れる。GRM 履修生に対しては、博士前期課程2年次の所属研究科での博士前期（修士）課程最終試験（試問会等）と同じ時期に、本プログラムの継続履修の可否について、Qualifying Examination (QE) を実施し審査する。



PEでは志望理由書、博士前期課程における授業科目の履修状況、筆記試験（論述）、口頭試問等を総合的に判断し、可否を決定する。PEの実施により、学修した知識を整理して理解する基礎学力および、本プログラムへの志向性を確認する。

QEでは履修継続理由書または志望理由書及び研究計画書（英語/日本語）を基とする口頭試問を実施する。QEにより基礎学力とともに計画立案能力、計画に基づいて研究・実務を遂行する能力を確認する。QEを通過した履修生は、「GRM Ph.D. Candidate」として博士後期課程に進学※し、所属する研究科の定める規程等に従って博士後期課程の教育課程を履修するとともに、継続して本プログラムを履修する。なお、QEの実施においてPE未受験者を若干名受け入れることがある。

本プログラムでは、所属の研究科の所定単位を修得した上で、別途、本プログラムの修了に必要な単位（20単位）を履修し、一定の業績を挙げた履修生に対し、プログラム修了認定審査を行う。本プログラムの修了認定審査に合格し、所属研究科における博士学位論文審査に合格した者には、所属研究科の教育課程及び博士課程教育リーディングプログラム（グローバル・リソース・マネジメント）を修了したことを添えた、「博士（所属研究科ごとに定める専門分野）」の学位を授与する。

※別途、大学院入学試験（博士課程（後期課程））（表2）を受験し合格する必要がある。

表1 グローバル・リソース・マネジメント参画研究科・専攻（博士前期課程）

基幹研究科・専攻	グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻、 理工学研究科情報工学専攻、理工学研究科電気電子工学専攻、 理工学研究科機械工学専攻、理工学研究科応用化学専攻、 理工学研究科数理環境科学専攻
連携研究科・専攻	神学研究科神学専攻、文学研究科哲学専攻、 社会学研究科社会福祉学専攻、社会学研究科産業関係学専攻、 法学研究科公法学専攻、経済学研究科理論経済学専攻、 経済学研究科応用経済学専攻、商学研究科商学専攻、 総合政策科学研究科総合政策科学専攻

※2011年度以前入学者は、理工学研究科を工学研究科（応用化学専攻は工業化学専攻）と読み替える。

表2 グローバル・リソース・マネジメント参画研究科・専攻（博士後期課程）

基幹研究科・専攻	グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻、 理工学研究科情報工学専攻、理工学研究科電気電子工学専攻、 理工学研究科機械工学専攻、理工学研究科応用化学専攻、 理工学研究科数理環境科学専攻
連携研究科・専攻	神学研究科神学専攻、文学研究科哲学専攻、 社会学研究科社会福祉学専攻、社会学研究科産業関係学専攻、 法学研究科公法学専攻、経済学研究科経済政策専攻、 商学研究科商学専攻、総合政策科学研究科総合政策科学専攻